

## 弱視通級指導学級の現状と弱視教育研究会について

世田谷区立笹原小学校 教諭 川嶋 栄子先生

20年以上弱視児童（以下児童とします）の指導にかかわっておりますが拡大写本は児童にとって、とても役に立つ教材であり作成してくれるボランティアの方々へ感謝しています。今日はその活用の様子を伝えることで作成の役に立てばと思っています。

笹原小学校の弱視通級指導学級「目の教室」（以下目の教室と称す）は通級という形で地域の学校に在籍する児童が週に1回、2から8時間程度通ってきます。都内にこうした通級校が11校（現在1校休級）あり、盲学校は5校あります。学習は個別指導が基本でそのほかに小集団での活動も行っています。

通級は在籍校で普段は苦勞していることをどうすれば改善できるか考え、何を変えればよいのか、在籍校とも連携を取りながら、児童だけでなく保護者の声も含めて通訳する役目をしていると思います。

ここで「目の教室」の様子をビデオで紹介します。これは笹原小学校通常の学級4年生児童が障がいに対する理解を進めていく学習（総合的な学習の時間）として目の教室取材に来て目の教室の児童が答える形でビデオに撮り児童集会で発表したものです。

### \*ビデオの取材から

笹原小学校には現在19名通級しています。

区内だけでなく目黒区、三鷹市、狛江市、稲城市、府中市などからも通級してきています。

目の教室へは見やすくする道具の練習に来ていると道具を解説しながら紹介しています。

児童集会で上映後に作成者の感想あり上映は終了です。

### \*目の教室の紹介補足

地域との連携 拡大教科書の作成ボランティア（保護者や地域）

プレイルームの紹介 学習室のほかに鉄棒やマット運動、鉄棒など体を動かすことができるスペースがある

集団活動（月1回） サマースクール・大根掘りなど

### \*7通級の学習について

自立に向けて在籍校で頑張れるように補助していく形です。国語、算数中心で見えづらさにより理解しにくい部分を予習しておき在籍校での学習に備え理解が不十分な場合は復習もしてさらに理解を深めます。学習で使う道具に事前に触れて練習しておく事もします。コンパス、分度器、カッター、彫刻刀、ミシン他

### \*集団活動について

上野動物園企画のサマースクール 実際に生きている動物に触れて感触を知ることが大事。

さつまいもの栽培 苗を植えて収穫までを体験する。

いものつるを使って大縄跳びもする。普段は縄が見えにくくて挑戦しにくい仲間が一緒だと参加しやすい。

大根掘り体験 近所の農園の協力で収穫体験し大根は学校全体の給食に使ってもらう。

### \*在籍校での学習の様子

補助具の活用の様子 ノートと黒板を見るためiPadを机にセットしている。拡大教科書の活用 保管

場所の確保 通常サイズの教科書も買って用意する。家庭学習の大切さ 週1回の学習を親にも学んでもらい、通級と通級の間は親にフォローしてもらう。

### \*学力テストの対応 東京都は5年生 文科省は6年生が実施、受験時の準備として時間延長、別室受

験なので部屋や監督官の確保や問題の拡大版を用意してもらえるかの確認、補助具の持ち込みの許可確認などを連携して整える。

\* 7 遠近両用拡大読書器の紹介 在籍校の教室に置き、黒板や担任の先生を見る

## 拡大教科書について

児童にとってなくてはならないものである。教科書会社出版のものは文字サイズの種類が少ないため、児童の見え方に合ったものを選ぶには不足がある。レイアウトや文字等オーダーメイドがきくボランティア作成版は素晴らしい。低視力による見え方だけでなく色やまぶしさに対する対応、教科特性にも対応してもらえありがたい。国語、算数は毎日しっかり使うので細かい配慮が行き届いていて効果的に学習参加しやすく、より読みやすいボランティア作成がありがたい。出版会社の教科書は余白が多いため行が離れている方が読みやすい子はそちらを使うこともある。

### \* 文字サイズの決定

視距離として15～20センチくらい離れてスラスラ読める大きさを考え勧めている。教科書作成の際、簡易的に作った弱視メガネを使って見え方の確認をする。紺の色画用紙にパンチで穴をあけ、セロテープを張り指紋で汚す物だがこの眼鏡越しに見ると太くて濃い字が大切なのがある。

### \* 教科書サイズ

学年があがると教科が増えてランドセルがいっぱいになるため、A4サイズを使用していた児童も高学年ではB5サイズに変更してループ併用で対応するケースもある。

### \* 副教材について

漢字ドリル 見本は黒くて太い字で見やすいがなぞりの部分がグレーで薄く困る。この場合には拡大コピーして本人の見えやすい色のペンでグレー部分をなぞる。鉛筆線が見えなくならないよう確認が必要  
漢字ドリルは在籍校で提出もあるのでしっかりと教えたい

社会・資料集等 文字が小さくて困るループでもはっきりしない大きさが多。分布図、地図なども同様。

## 東京都弱視教育研究会（都弱視研）の活動から →研究会のパンフレット配布あり

都弱視研 都弱視研は都内の弱視学級11校と盲学校5校の先生方の研究会

国・都立と区・市立の学校と一緒に研究をしている団体は珍しく、貴重なネットワークといえる。

月に1回会合を開き研究している。

### \* iPadの現状活用について・・・都弱視研の調査から（平成26年度）より

・使用状況の調査76人中 使用している19名（学校でも使用と回答）。平成27年度はさらに増えていると予想できる。

・使い方としては、カメラ機能で黒板や遠くを写して手元で見たり火を使った実験や生き物観察に使う  
例 黒板に紙を貼って意見を書き込んでいく授業では単眼鏡でも見つけにくい。このためカメラで撮影して手元で拡大することで理解しやすい。持ち帰ってノートに書き写すことが可能

・その他 植物の成長確認 生き物の観察 花の咲き方鑑賞 体育の動作確認 高い位置の展示物確認  
スーパーでは商品を撮影、中身、値段、賞味期限などが確認できる 天体観測、風景を見る等  
都内盲学校高等部普通科では、教科書データをiPadに入れて教科書として活用。白黒反転機能や持ち運びが便利だが紙の教科書と併用する生徒が多い。数学や英語の授業で実際に隣に紙の教科書も置いて授業している風景を紹介

・有効なアプリの紹介

漢字筆順辞典 筆順をはっきり大きく見ることができ、覚えるので漢字ドリルと併用すると

とても良い

・パソコンとの比較

マウス操作は苦手なのでタッチパネル式の i P a dの方がネット検索もしやすく弱視の生徒には良い。アクセシビリティを活用すればズーム読み上げもできるようになるので個々の見え方に合わせて使うことができる。

最後にボランティアの尽力や努力を無駄にしないようボランティア作成の拡大写本の存在と有効さを児童・生徒・保護者、学校、教育委員会に今後も伝えて続けていきます。